

『畑日記』 ⑤ 5月28日(金)

今日は畑作業はお休みして、農業の歴史や品種改良について知見を深めるため、秋田県立農業科学館に行ってきました。



米のつくりかた いまとむかし



稲の花です。8月頃の朝方に一度しか咲かないそうです。

昔はこのような道具が使われていたそうです。

今回、学習したことは・・・

米のつくりかた（昔の農業と器具）

昭和20年代頃の米の作り方と、現代のやり方のDVDを見ながら、当時の稲作について詳しく説明をしていただきました。今は機械で作業している様子はよく目にしますが、昔は牛を使ったり、手作業が多かったりとたくさんの苦労があったことを知りました。

稲の品種改良について

品種改良はもっと簡単にできるものというイメージがありましたが、長い年月をかけて地道な努力の積み重ねだと言うことがよく分かりました。あきたこまちやサキホコレができた理由も知ることができました。

農業科学館の先生方、丁寧に教えてくださってありがとうございました。普段、何気なく食べているお米の大切さも改めて感じる事ができました。



一番右側にあるのは陸羽132で秋田県大仙市の花館で作られた稲だそうです。

～次回の『畑日記』をお楽しみに～